

會 長 就 任 の 辭

※ 會 長 坂 田 昌 亮



現在吾國に於きまして政府當局は施政の重點を所謂五大政策に置いて居るのであります。即ち産業五ヶ年計畫、開拓、北邊振興之に加るに民生振興、教育刷新であります。これにより國運の飛躍的隆盛を期すると共に新東亞情勢下に於て日滿共同防衛の實を擧げんとするものであります。

御承知の様に滿洲國は國土施設の點から見て全くの處女地ありまして以上の諸政策の遂行は凡て其基本的施設の建設から始めなければならぬのであります。これ無くしては如何なる政策も其完成を期し得ない状態にあるのであります。

この基本施設の建設は其の大部分が土木事業であり現に本會員が日夜精勵致して居りますところの各般の事業特に北邊振興道路河川都邑の事業飛行場の整備、大東港の建設、松花江、鴨綠江又は鏡泊湖に於ける水力發電事業或は遼河の治水事業、南滿運河の開鑿或は哈大道路の建設等は現在の吾國に於ける建設事業の代表的なものであります。

斯の如く諸般の大事業が相次で實施の必要に追られました爲に「人と

(2)

物」の不足が問題になつて來たのであります。あらゆる建設事業が技術者、労働者、資材の三者によつて制肘を受けなければならないことになつたのであります。一面から申しますならば技術者尊重の時代が現出したのであり、技術者の活躍すべき時代が來たのであります。

然しながら吾々技術者としてはこの新傾向に對し徒に陶醉することのない様嚴に戒心しなければならないのであります。最近の「ノモンハン」事件に吾々の同志が皇軍に協力してゐる様に吾々は國家總力戦の一戦士たる意誠を明確にして事に當らなければならないのであります。技術的研究練磨は勿論のこと大に精神的向上を計り常に自肅自戒、率先報國の誠を致さなければならないのであります。これが爲身體の鍛練と保持に充分の意を拂ひ常に困苦艱難を征服するの體力と精神力を有しなければならないと信ずる次第であります。

時局益々重大を加ふるの秋前會長直木博士の後を受けて不肖私が會長に就任いたすことになりましたけれども元來淺學非才果してよくこの重責に堪へ得るや甚だ自信なき次第でありますが願くば會員諸氏の御支援を得て出来る限りの努力を致したいと存するのであります。茲に會長就任にあたりまして一言所懷を述べた次第であります。